

(平成 31 年 4 月試験研究業務月報)

試験研究課題：強樹勢台木の接ぎ木による賀茂ナス果実の高品質・高付加価値化技術の確立

研 究

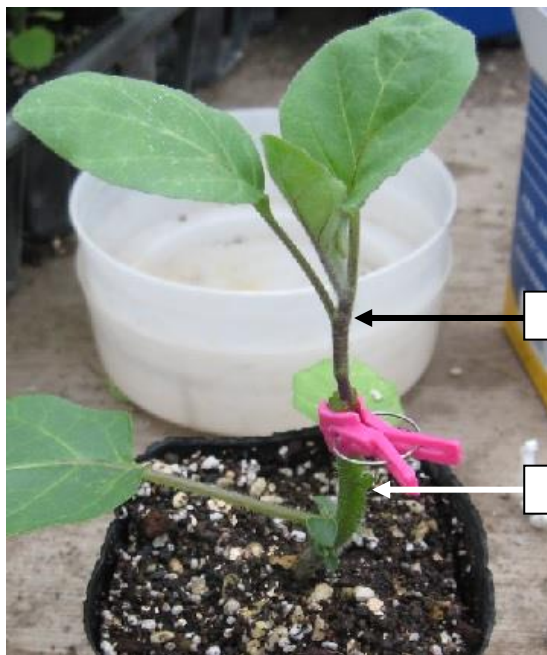
賀茂ナスの接ぎ木を実施

京野菜の一つである賀茂ナスの栽培では、土壌伝染性の病害を防ぐために接ぎ木*1 苗が利用されています。しかし、現地で利用されている台木品種は夏期の高温に弱いため、根の吸水能力が低下して果実へ供給される水分が不足することで艶のない果実が発生し、品質が低下することが問題となっています。

そこで当センターでは、病害に強く、品質が低下しにくい賀茂ナス栽培を目指して、最適な台木品種の選定を進めています。

3 月下旬から 4 月上旬に 5 品種の台木に賀茂ナスを接ぎ木しました。養生期間を経て育成した苗は 5 月に定植し、台木品種ごとに収量や果実品質などを調査します。

※1 接ぎ木：ウリ科やナス科などの野菜栽培で、土壌伝染性の病害や低温、高温への対策として、それらに強い特性を持つ台木と接ぎ木した苗が利用されています。ナスでは主に青枯病、半枯病、半身萎凋病など土壌伝染性の病害を防ぐため接ぎ木栽培を行います。



接ぎ木直後の苗。
接いだ部分をクリップで留めている。



台木に賀茂ナスを接ぎ木する様子